

科目	公衆衛生学	担当	栗田 秀樹	履修学年	2年
時間数	90分×時限×8回(週1回)	履修区分	選択	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

公衆衛生学は地域・学校・産業集団の健康に関する個体・環境・社会的要因などの状況を把握・解析し、健康増進・疾病予防する学問です。本講義では疾病統計の推移、現在の生活環境問題、将来における健康の保持増進、労働に関する健康障害、地球環境をめぐる問題点と国際的な取り組みについて学び、この分野の知識が修得できる。

【履修注意】

各項目について積み重ねの講義になるので、全出席すること。

【評価方法】

試験成績(80%)、出席状況・講義受講態度(20%)等を総合的に評価する。

【試験について】

定期試験を行う。

再試験対象者の条件: 試験、講義受講態度等を総合的に評価し、60点未満者を再試験対象者とする。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

【教科書】

「購入教科書なし」 その都度プリント配布

【参考書】

書籍名: 国民衛生の動向 著者: 出版社: 厚生統計協会

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	公衆衛生学について	公衆衛生学の定義、目的、活動の歴史、健康日本21(第2次)
2	環境保健	地球環境問題と健康影響、環境基本法、公害、生活環境、廃棄物処理
3	食品保健	食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食中毒、食品衛生法、食品の安全性
4	予防医学 疫学	予防医学の概念疫学指標、記述疫学、分析疫学、介入研究
5	成人保健 精神保健	感染症法、現状と動向、予防と流行対策、生活習慣病精神保健福祉法、精神保健福祉の統計、地域精神保健活動
6	高齢者保健 母子保健 学校保健	高齢者の現状、高齢者医療確保法、介護保険法、高齢者福祉法、母子保健制度、現状と動向
7	産業保健 国際保健 保健医療論	労働衛生行政、労働衛生対策、職業性疾患、産業中毒、国際協力、WHO、JICA、NGO
8	定期試験	1～7コマの復習・確認・まとめ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		